都留フィールド・ミュージアム

都留文科大学には、地域との長い交流の歴史と教育、研究活動の蓄積があります。地域そのものを博物館に見立て、自然や文化の事象に親しみ、じかに触れ、学びを深めていこうとする「都留フィールド・ミュージアム」構想もその一つです。人間探求を掲げる都留文科大学にふさわしいこのような取り組みを受け継ぎ、発展させていくことを目的として地域交流研究センターが発足しました。

地域交流研究センターは「驚異の部屋」

地域交流研究センターには展示スペースがあります。大学周辺にある自然物など実物資料にじかに触れ、野外に誘うことを目的とした展示で、本学の学生もその製作に参加しています。機関誌『フィールド・ノート』を発行する編集室もあります。そこでは、学生がみずから地域に出て、観察や取材をし、表現するという主体的な取り組みをしています。学科に関係なく参加できます。

施設のご案内

「ムササビライブカメラ」を設置しています

本学のキャンパスにはムササビが暮らしています。自然との共生を実地に学べるフィールドです。ムササビの生態などを誰でも観察できるようライブカメラを設置し、本学の HP で公開しています。

オープン・アーカイブを運営しています

地域の写真資料や標本を収集しています。教育実習や授業で活用できるよう管理・運営をしています。これらの資料をもとに、教員・学生・市民が協働して地域の教材や授業の開発にも取り組んでいます。

都留文科大学前駅舎で展示をしています

富士急行線都留文科大学前駅の駅舎は、「都留フィールド・ミュージアム」の分館です。学生と市民が地域の自然や文化について共同で研究しその成果を展示しています。

地域交流研究センター
〒402-8555　山梨県都留市田原3-8-1　4号館1階
0554-43-4341（内線606）　ckouryu@tsuru.ac.jp
◀左のロゴは、人と人、人と自然の結びつきをイメージして制作しました

都留文科大学 WEB　都留文科大学 twitter　地域交流研究センター twitter

FIELD MUSEUM NEWS　創刊号
【発行】© 都留文科大学地域交流研究センター　【発行日】2021 年 12 月 24 日
【センター委員】北垣憲仁 / 内山美恵子 / 堤英俊 / 野中潤 / 吉田恵理 / 原和久 / 別宮有紀子 / 山森美穂 / 邉見信 / 鈴木健大 / 冨永貴公 / 福島万紀 / 齋藤淑子 / 原まゆみ / 山本直紀 / 吉岡卓 / 日向良和 / 青木宏希 / 佐野夢加【事務局】深澤祥邦 / 関戸聡子 / 渡邉愛美
表紙絵：成瀬洋平（本学卒業生）

TSURU

FIELD MUSEUM NEWS

都留文科大学 地域交流研究センター

創刊号 vol. 01
2021 December

地域交流研究センターとは

地域交流研究センターは、都留文科大学と地域をつなぐさまざまな活動と研究に取り組むための拠点です。地域は、人びとが生まれ育ち、自然とかかわりながら暮らし、文化と歴史を刻みつづけている現場です。そこには、自然・人間・社会のあり方を問いなおす手がかりがあります。地域交流研究センターは、活動を通して、地域全体をミュージアムととらえる「都留フィールド・ミュージアム」構想を推進していきます。

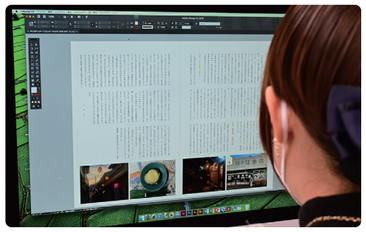
地域交流研究センター

地域交流研究センターには、「自然共生研究部門」、「共生教育研究部門」、「まちづくり研究部門」、「グローカル交流研究部門」があります。この４つの部門では、私たちのくらしや自然との共生のありかたなど地域の現代的な課題に即して、自然科学や人文・社会科学といった領域を総合して取り組んでいます。それとともに、地域を担う次代の主体を育成することを目的としたさまざまな教育・研究活動を行なっています。気軽にお問い合わせください。

自然共生研究部門

「地域の自然と暮らし」をテーマに、おもに①動植物の生態研究、②水循環と流動（水文環境）の研究、③都留の農林業の持続に関する研究、④地域の自然と文化の保全活動に取り組んでいます。またキャンパスでの緑化活動や地域の小学校での放課後実験教室、自然観察会などにも力を入れています。学年に関係なく参加できるプログラムもあります。

共生教育研究部門



地域情報教育分野

地域情報教育分野は、学校現場に導入が進んでいる情報技術や、各学校での情報教育をサポートしていく分野です。教員の情報技術スキルの向上のためのサポート、情報教育の教材や授業づくりを支援します。

地域美術教育分野

教育活動や多くの人と関わる生き方に興味や関心を持った学校教育学科の学生を中心に活動の募集をしています。大学の授業で学んでいる図画工作の経験を活かすことで、地域教育の持つ可能性を造形活動の中で感じられると思います。市内の小学校や保育所などが活動の舞台です。子どもたちと楽しく活動しましょう。

地域インクルーシブ教育分野

この分野では、健常／障害、世代などの境界を超えて混じり合う「まち」づくりを念頭に、社会福祉協議会などの地域団体と連携しつつ、週末の居場所づくり（通称：「クロポ」）やキャリアデザインワークといった活動を行っています。毎回、学生・市民のボランティアを募っていて、学科・所属にかかわらず参加を受け付けています。

社会教育分野

社会教育分野では、大学の教室を飛び出して、都留市内にあるカフェでお茶を飲みながら、地域の方々、本学の教員や学生が和気あいあいと多様なテーマで語り合う「つるぶん café」を企画・運営します。カフェで取り上げて欲しいテーマも随時、募集しています。また、子どもの地域学習にかかわる調査・研究を始めます。

まちづくり研究部門

まちづくり研究部門では、富士急行線谷村町駅舎を活用し、地域と大学生との交流・学び・まちづくりの拠点にしようと、小学生から高校生までの放課後の居場所づくりに 2018 年から取り組んでいます。私たちはそれを「ぷらっとはうす」と呼んでいます。餅つき大会や流しそうめん、遠足、クリスマス会、留学生との交流会なども。学部・学科・学年に関係なく参加できます。

グローカル交流研究部門

地域の自然と文化の魅力を実地に学び、また本学の留学生や多様な人びととの交流や学び合いから地球規模の視野を育むこと、またそうした活動を通して持続可能な地域のあり方をともに考えることをテーマにしています。自然観察会や地域での交流会の企画や運営に参加できます。

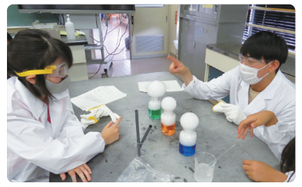
地域交流研究センターのそのほかの事業

地域貢献活動

「市民公開講座」、「こども公開講座」、「名画座（映画上映）」など、大学教員の専門分野を活かしながら、子どもから大人までを対象とした講座を数多く開催しています。

地域交流研究教育プロジェクト

本学の教員がその持ち味を活かし、地域交流活動の観点から必要な研究・教育を展開するためのスタートアップ事業として位置づけられています。これまで地域の小学校での理科の実験授業や食育についての研究などに取り組んできました。幅広い地域交流活動の可能性を切り拓くことを目的としています。



学部共通科目「地域交流研究」

本学の長い歴史のなかで築いてきた地域の人間関係やフィールドをもとに、自然や文化にじかに触れ、学びを深めることを特色とした共通教育科目群です。

出版・広報活動

地域交流研究センターの活動の詳細をまとめた年報『地域交流研究』やパンフレットを発行しています。これらは地域交流研究センターでご覧いただけます。本学のホームページでも活動のご案内や報告をしていますのでご利用ください。

ボランティア事業部

ボランティア事業部では、都留市社会福祉協議会との連携のもと、趣味や特技などを生かして地域ボランティアに参加したい学生向けに、登録制度を行っています。希望される内容のボランティアニーズが生じたときに登録学生に連絡するシステムです。また、ボランティアに関心のある学生同士がつながる場として、「文大ボランティアひろば」を開催しています。

見出し横のロゴについて：ニホンリスがクルミの実を食べた痕をモチーフにしています。こうした食べ痕も動物のくらしを知る重要な手掛かりになります。